館林市総合計画審議会　第２回行政経営の部会　議事録【概要】

１．日　時　　令和２年５月２０日（水）午後３時４５分から午後５時１５分まで
２．場　所　　館林市役所５階　研修室
３．出席者
【審議会委員】１０名
部会長　服部覚委員、副部会長　平林恵美委員
角田好二委員、森静子委員、三田英彦委員、宝田恭之委員、中村美子委員、中村喬委員、市川顕委員、岩崎祐一委員
【策定事務局参事】１３名
秘書課長、企画課長、財政課長、税務課長、納税課長、行政課長、人事課長、契約検査課長、市民協働課長、市民課長、出納室長、議会事務局次長、監査委員事務局長
【事務局】１名
企画課政策推進係職員

※欠席者なし

４．会議内容
(1)開　　会　　事務局
(2)あいさつ　　服部覚部会長
(3)説　　明　　事務局
(4)議　　事　　進行：部会長　　説明：所管課長及び事務局

①　前期基本計画素案の審議

■　分野：市民協働

（委員意見・質問）
・ボランティア活動について、参考資料として配付された達成度調査報告書の１３１ページでは「幅広い年齢層に向け情報を提供する必要がある」等と、課題を挙げているが、基本計画のどこに反映されているのか？
⇒施策の方向２で包含している。

・事前に質問させていただいたが、施策目的の１、「多くの市民が積極的に地域活動に参加し～」の記述を、「市民一人ひとりが主体的に地域活動に参加し～」と修正すべ

きと考えた。また、施策の方向１「地域力向上を図るため～」を「地域力向上を図るため、地域が行う主体的な地域活動を支援し、地域の連帯意識の高揚に努めます。」に修正すべきと指摘したところ、修正していただけるとのこと、よろしくお願いします

・長期的な総合計画を策定しているので、１０年から２０年のスパンで捉えるべきだと感じている。

・３点ほどお伺いしたい。一つ目は、施策目的１の「地域力の向上」とあるが、地域力の定義をどこかに表記すべきだと考えるがいかがか。次に、現状と課題１で、「都市化の進展やライフスタイルの多様化が地域の連帯意識を希薄化している」とあるが、都市化の進展やライフスタイルの多様化と地域の連帯意識の希薄化には因果関係はないと考えるがいかがか。最後に、施策の方向１に地域活動を支援とあるが、地域支援をしているのは分かるが、特定の団体にだけ支援している可能性はないのか？

⇒まず、施策目的１の「地域力の向上」については、どこかに注釈を入れるなど対応したい。二つ目の現状と課題の因果関係についてだが、これは一般論として記述しているので、ご理解いただきたい。最後の特定の団体のみを支援していないかということについては、各行政区からご推薦頂いた団体やＮＰＯとして活動している団体を支援しており、行政側で選別していることはない。

・ライフスタイルの多様化はイノベーションをもたらすものだと考える。

・現状と課題の２「市民と行政が連携した課題解決」と、施策の方向が矛盾しているように感じる。

・社会関係資本、いわゆるソーシャルキャピタルの考え方についてもっと記述すべき。

■　分野：人権の尊重

（委員意見・質問）

・現状と課題１「戦争歴史の風化」だが、唐突に戦争というキーワードが出てきている気がする。施策目的のどこに繋がるのか分からない。

⇒ご指摘の通りだと考える。施策目的に戦争、平和というキーワードを入れるか検討する。

・子育てと学びの部会で、多文化共生について尋ねたところ、行政経営の分野に入っているとのこと、こちらでいいのか？こども達の権利を守るための、多文化共生について意識して記述してもらいたい。例えば、ムスリムの子供達が、給食を食べられないという状況があれば、学校に行くことができず、教育を受ける機会を失いかねない。

⇒ご指摘の通りだと考えている。多文化共生の考え方は、子育てにも影響があるばかりでなく、すべての行政分野において意識しなければならない課題だと認識している。人権の尊重という分野では、施策目的４「多文化共生の地域づくりにより、共に安心した暮らし」現状と課題４「多文化共生社会への対応」施策の方向４「多文化共生の地域づくり」といったとこで表現させていただいている。

・他の部会で障がいを持つ子供についても多文化共生の考え方が重要だと話したが、同様の回答だった。市民に分かりやすく、もう少し多分文化共生について丁寧に触れていただきたい。

⇒多文化共生に関する表現方法については、検討したい。

・大きな課題になってしまうが、人間の尊厳とは何か、ということについても検討していただければと思う。
・悩み事相談の対応をさせていただくことがあるが、人権は非常に大きな課題であり、表現方法をよく検討して欲しい。
・多様な方々が館林市で幸せな生活を送るためには、女性、子供、障がい者、老人、移住者、移民難民など、もともと館林に住んでいなかった方が館林市にすんなりとインクルードできるということがシナジー効果を生むうえで重要だ。このことにより、もともと館林市に住んでいた方々も幸せになれると考える。私も将来館林市に移住したいと考えることもあり、市外からの転入者にいかにフレンドリーにできるかが、この分野のポイントではないか。施策の方向の４に社会統合やソーシャルインテグレーションの考え方、また、移民問題などについて触れていただくと、館林市は先進的な都市と認識されるのではないか。
・移住者や移民者の問題は、市全体で捉えるとぼやけてしまう危険性もあるのではないか。実際に移住者や移民者が、小さい地域（コミュニティ）で周囲の方に受け入れられるのかが問題。
・それでは、多文化共生については、市の方で検討していただき、入れられる表現があれば修正、追記していただきたい。

■　分野：行政活動

（委員意見・質問）
・施策の方向の１０になるが、コロナ禍のなか、教育にＩＣＴを活用することが有効だということがよく分かった。双方向でのやり取りができるような整備が進むとよりよい。

⇒行政経営の分野で表現しているのは、市の事務方のＩＣＴ化であり、教育でのＩＣＴ

化については教育の分野で検討すべきと考えている。なお、教育分野では、現在スタディサプリやＧＩＧＡ構想の実現などを目指しているところである。

・施策の方向№１１について、達成度調査１３７ページ施策の方向２で「多様な研修機会を提供し～」とあるが、新たな素案のどこに反映しているのか？人材育成は重要だと考えている。他市との人事交流や海外への派遣なども考えているのか？
⇒現時点では海外への職員派遣は考えていないが、多文化共生の時代では、海外から移住された方々への対応も重要であると考えている。現在、人事交流として県や水道企業団、消防署などと実施している。

・まちひとしごと創生総合戦略の９４ページで市職員の若手グループから意見を聞いて策定したとあるが、大変良いことであり、今回は聞かないのか？若い世代の人材育成にもつながるのではないか？
⇒前回の総合戦略策定時に若手グループから意見を聴取したのは、戦略策定の性質上、独身や子育て世代から率直な意見を伺いたかったというところである。今回の総合計画は全世代対応というところもあり、総合計画審議会委員の皆さんにご意見を伺っている。若い世代のご意見はアンケート調査などで中学生からも伺っている。

・行政の方と、審議会委員の両方の方に税収の確保について伺いたい。税収の安定化は産業の誘致や人口の増加が深く関係している。しかし、人口の増加は簡単な話ではなく、一人当たりのＧＤＰの増加を考える必要があると思う。ＧＤＰの増加が必ずしも人の幸せに繋がるとは思わないが、どこかに記述すべきではないか。教育の充実で人の心が豊かになるとういうのと同じように、市民一人当たりの稼ぐ力が税収の増に繋がるということも考え、指標を設定しても良いのではないか。
また、館林市民の一人当たりのＧＤＰは、日本の（自治体の）中でどの程度の位置にあるのかなど研究すべきではないか。
・大きな企業があれば当然税収は増加するの。例えば太田市の富士重工はまさに大企業であり、太田市の税収にも大きく影響を及ぼしていることと思う。しかし、今回のコロナ禍で、わずか１～２か月で大きなダメージを負っているのではないか。
館林市には比較的大きな企業がある方だと思うが、県内で館林市民のＧＤＰがどの位置にあるかについてはよく分からない。
・現状と課題の３で市税等の安定した財源の確保が厳しいとあるが、税収を上げるには、これからは公共施設が必要なのではなく、公共インフラが必要となるのである。公共インフラといっても、道路とか鉄道ではなく、ネットやＩＯＴ、自動運転技術といった新たな技術のことだ。こういった公共インフラがあれば富裕層も館林市に移住してくると考える。

また、人材育成の話になるが、奈良県の生駒市では職員の副業を可能にした。副業を可能にすることにより優秀な職員が集まっている。なお、同市では任期制のスペシャリストの管理職を導入し、民間の定年した世代も活用している。また、私が政府機関とやるのは、クロスアポイントメントという手法で期限を設定し人事交流している。

・今、センシング機能が発達しており、様々な技術に導入されている。そういった技術を利用し、他市との差別化を図るのも面白い。また、市外のユニークな人材を引っ張ってくるということも重要なこと。

■　分野：情報の共有

（委員意見・質問）

・高齢者が情報通信機器を使いこなしていない現状がある。高齢者でも使用しやすいＩＣＴ化を推進していただきたい。

・高齢者はＩＴが好きではないという先入観があるが、興味のある方も多い。

・海外ではネット上のプラットフォームの作成が進んでいるが、日本はものづくりにおいてのＩＯＴ化が得意なので、さらに伸ばしていくべき。

・私が卒業した小学校が廃校になってしまったが、その跡地が農業のＩＣＴの拠点になっている。ドローンを飛ばすなど最新の技術を導入した農業を行っているようだ。

・昨年の台風１９号の水災害の時に消防団の方をはじめ、迅速に対応いただいたおかげで大事には至らなかった、つまり館林市は災害に強いということも言えると感じた。また、ＩＴ化を進めたり取り組んでいるということをもっと情報発信すべきだと思う。最近ユーチューブやインスタグラムで市が情報発信しているのは良いことだと思うが、まだ、視覚的な戦略が足りていないと思う。

・今回の総合計画は「持続可能」ということがテーマになっていると感じている。ということはＳＤＧｓの考え方に繋がっているということになるわけで、ＳＤＧｓのアイコンを、どことどこがつながるか分かるような形で入れていただきたい。マークが入るだけで、ＳＤＧｓに参加している意識が高まる。

・ＳＤＧｓに関連してだが、群馬県では「ぐんま５つのゼロ宣言」というのを宣言している。それは、宣言１　自然災害による死者「ゼロ」。宣言２　温室効果ガス排出量「ゼロ」。宣言３　災害時の停電「ゼロ」。宣言４プラスチックごみ「ゼロ」。宣言５　食品ロス「ゼロ」というもので、これは館林市にも取り入れるべきと感じた。

⇒当初から目指している「持続可能」というニュアンスは、将来にわたって館林市が持続していくという意味で、ＳＤＧｓを最終目標としているものではない。計画書に入れるのも可能だが、何を意味するのかを伝えるのが難しいと考えている。また、市では以前からＳＤＧｓの考え方には取り組んでいるので、あえて標記するかは検討したい。

・私もＳＤＧｓを総合計画に取り入れて欲しいと考えている。というのは、奇跡のリンゴ栽培を成功させた木村先生の講演を聞く機会があったが、先生も最後にＳＤＧｓを示していた。企画課長のお答えのように、これまでも取り組んでいたのだろうが、取り組んでいることがどこに該当しているかを示すことで、より理解が深まるのだと思う。
・私は桐生市の総合計画策定にも携わったが、桐生市もＳＤＧｓを各分野に示した。ただ、その時申しあげたのは、ＳＤＧｓの本来の考え方をきちんと理解しているのかということ。ＳＤＧｓの理念は世界で一人も取り残さないということ。現在実施していることを単に入れ込むということとは違うということを申し上げた。
また、情報提供についてだが、先日ズームを活用して試験的にオンラインでランチ会を行った。これを公開したのだが、やはり、最後は活字にすると情報が伝わりやすい。
情報を出すにはやはり工夫をしてもらいたい。
・情報発信について、やはり高齢者にはＩＴを活用したものは伝わりにくい。もちろん、詳しい人は自ら情報を取りに行くことができるが、情報が発信されていること自体知らない高齢者も多く、そういった方へいかに情報を提供できるかが課題だと思う。

・施策目的の１積極的な情報発信で市民と行政の情報共有とあり、これはホームページなどを想定していることだろうが、言語は多国籍に対応可能なのか。私はＥＵ研究者でもあるのだが、ヨーロピアンユニオンで検索すると welcome という単語が２０か国語で表記される。そして、ホームページの内容もすべて２０か国語で表記されている。多文化共生にもつながることであり、ホームページ等の言語についても充実させると先進都市に近づけると思う。
⇒施策目的１で記述しているのはホームページに限らず広報やＳＮＳなど多様なメディアのことである。翻訳についてはグーグルの機能が発達しており、本市のホームページも多国の言語に対応している。

②次回の部会開催の日程調整
【事務局より】
当初６月に部会開催予定はなかったが、４月開催予定だった部会が新型コロナウイルス感染症拡大防止のため延期となった。このことから６月に追加で会議開催をお願いする。
次回の部会は６月２６日（金）午後１時３０分から開催予定。
後日正式通知を発送する。

５　閉会